

令和4年度 第2回奈良市社会教育委員会議 会議録

開催日時	令和5年3月24日(金)午後2時00分から4時00分まで		
開催場所	奈良市役所 中央棟 B1 会議室		
出席者	委員	岡田(和)委員、奥田委員、加藤委員、川野委員、北出委員、小北委員 【計6人出席】(岡田(龍)委員、奥村委員、艸香委員、中村委員 欠席)	
	事務局	教育長、教育部長、教育部次長、地域教育課長、地域教育課 課長補佐、生涯学習財団事務局長	
開催形態	公開(傍聴人なし)	担当課	教育部 地域教育課
議題 又は案件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和4年度 大会等参加報告</li> <li>2. 奈良市社会教育推進計画に基づく事業の評価・点検に関する活動報告</li> <li>3. 今後の公民館について</li> <li>4. 今後の黒髪山キャンプフィールドの運営について</li> <li>5. その他</li> </ol>		
決定又は 取り纏め事項	・事業評価・点検に関する活動報告(令和3年度事業に係る事業評価シートに対する委員意見等)のとりまとめた内容について、各課にフィードバックをすることについて承認された。		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和4年度 近畿地区社会教育研究大会(奈良大会)参加報告及び 令和4年度 第54回奈良県社会教育学校参加報告【資料1】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と地域の連携についての講義がありより理解を深めた。</li> <li>・コーディネーターの人材確保について事例の説明。</li> <li>・子ども達のタブレットの使い方などについての講義があった。</li> </ul> </li> <li>2. 令和4年度 全国社会教育全国大会(広島大会)の参加報告【資料2】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年ぶりの対面式の全国大会となった。</li> <li>〈委員からの質問〉</li> <li>・コーディネーターの後継者の増やし方についてはどのような方法をとっているのか? →楽しんで活動している様子を見ていただいて増やしていつている。</li> </ul> </li> <li>3. 奈良市社会教育推進計画に基づく事業の評価・点検に関する活動報告 〈事務局から評価・点検のとりまとめの報告〉</li> </ol>			

・各課からの成果について、社会教育委員からの意見等をまとめた。総意を出すというよりも、個々の委員がそれぞれの立場として見えているものを列挙した形になっている。

〈委員からの質問〉

・フィードバックはどのような方法でされるのか。市の他の計画においても、評価はするが、その後どのような対応をされたかがわからない場合が多い。

〈事務局〉

→社会教育委員からの意見を取りまとめたもの【資料3】を各課に返し、その後の状況がわかるようにしていきたい。

・【資料3】を社会教育委員の意見として各課にフィードバックすることが承認された。

#### 4. 今後の公民館についての報告【資料4】【資料5】

〈事務局〉

奈良市男女共同参画センターの奈良市生涯学習センターへの移転について以下のとおり説明【資料4】

・奈良市男女共同参画センターは、男女の人権の確立を図り、社会のあらゆる分野へ男女が対等に参画し、それぞれの能力を発揮できる豊かで活力のある男女共同参画社会の形成を推進することを目的として設置されている。主に関係団体への貸館、講座の開催及び関係図書への貸し出しを行っている。令和5年4月1日に生涯学習センター2階の一部に移転予定。

・移転に伴う変更内容として、団体交流室及びビデオ編集室については、公民館施設としては廃止し、男女共同参画センターとして位置づけ。交流スペースについては、男女共同参画センターの交流スペースとしても利用。なお、会議室については使用料を設定し、公民館施設として新たに貸館することとする。

・移転後の奈良市男女共同参画センターの運用については、開館時間及び休館日は公民館に準ずることとし、料金形態についても、公民館に準じて部屋の面積をもとに設定する。

・男女共同参画室は令和5年4月1日付けで市役所本庁へ移転。

〈事務局〉

公民館をとりまく諸課題と今後の方向性について以下のとおり説明【資料5】

・社会の変化に伴って公民館に求められるものも変化している。今後の公民館の在り方を考える時期にきているのではないかと考えている。その中で、公民館をとりまく諸課題については、運営面であれば地域ニーズの多様化・複雑化、利用者の固定化、施設面では老朽化やバリアフリー化が進んでいないこと、維持補修が予算の面でも困難だということ、社会的背景については人口減少・少子高齢化、ICT社会の到来が考えられる。

・求められる新たな姿としては、運営面では地域のニーズに応じた社会教育事業を展開することや子育て世代・若者支援の充実化、施設面では効率的で効果的な施設運営、誰もが

利用しやすい施設であること、社会的背景では人生 100 年時代を踏まえた街づくり、デジタルリテラシーを地域全体で高めることなどが考えられる。いま、生涯学習や社会教育はより大切だという局面にきている気がしている。今後の公民館を見据えて、改革や改善に取り組む必要がある。

・奈良市ではいわゆる行政改革にも取り組んでおり、学校であれば子どもたちが少なくなる中で統廃合を行ったり、幼稚園は時代のニーズに合わないためこども園に作り替えたりと変革をしている。公民館がこれまで積み重ねてきたものや今後も引き継いでいかなければならないものはあるものの、新たな工夫や変化も必要。

・目指すべき今後の公民館の方向性として、「地域や市民ニーズに寄り添ったより一層の生涯学習や社会教育の充実」、「様々な方法を取り入れた施設運営」を挙げている。たとえば年代に関係なくスマホの使い方などのデジタルリテラシーを高めなければ、場合によっては社会から切り離されてしまうので、これから求められるニーズについてより一層公民館で取り組まなければならないと考えている。また、地域からの要望で幅広い使い方をしたいということで今までに3つの分館がふれあい会館となっている経緯がある。施設管理については地域の方に参画いただき、中身については、それに伴う人的余裕で社会教育の専門である生涯学習財団が行うなど、限られた資源の中で施設を運営していく方法もある。

〈委員からの質問〉

・月ヶ瀬のワーケーションスペースが非常ににぎわっていると聞いている。全市的に展開できないか？

〈事務局〉

→ワーケーションスペースを全市的に展開することは予算的に難しいと思うが、この取り組みには今後のヒントがあると思っている。

〈委員からの質問〉

・コミュニティーセンター化するにあたり何が変わるのか？また、地域の方が貸館等を担うことで何が変わるのか？

〈事務局〉

→コミュニティーセンター化することで社会教育法としての位置づけの施設ではなくなり公民館ではできなかった多様な使い方ができる。また、地域の方が担うことで安価な管理運営が可能となる。

〈委員からの質問〉

・三笠公民館では地域の社会福祉協議会と協力して不登校の子や居場所のない若者に対し、学習支援活動をしている。公民館は出来ることが限られていて、貸館するのに時間が区切られていて使いづらい面がある。居場所スペースを柔軟に作る為に、コミュニティーセンター化することで使いやすくなるのか？

〈事務局〉

→仕組みを整えれば可能。しかし、今まで通り施設予約や、一定の利用料等の負担はいたたくことにはなる。三笠公民館は他の地域よりも地域の方々が多く参画されており、今後の公民館のありかたのヒントになると思っている。

〈委員からの質問〉

・すべての公民館をこのように改革していくのか？地域の特性に応じて変えていくのか？

〈事務局〉

→地域の特性を踏まえ、たとえば西部公民館や中部公民館等の稼働率も高く便利な場所にある公民館は奈良市の生涯学習や社会教育の基幹的な施設になればよいと考えている。

〈委員からの意見〉

・公民館という名称そのものが古いように感じる。使い方や使用できる対象者が分からない。災害時に使用するイメージである。市の施設としては難しいと思うし、地域性にもよると思うが、企業等に入ってもらってレンタルルームなどのようなものとして使ってもらってもよいかと思う。

・公民館は地域の拠点になっておりなくてはならない場所である。地域が担い手になった場合、担い手は年配の方が多いので若者が使いづらくなれないか心配である。

・大津市の例の資料には、得られた効果しか記載がないが、失ったことも踏まえた上で精査しないとイケない。また、その場合、市民にとってどうか、利用者にとってどうか、地域の担い手にとってどうか、行政目線でどうか等を見ていかなくてはイケない。

・公民館をとりまく諸課題はずっとつきまとう問題である。変革は必要なのかもしれないが早急でないかとも思う。地域の担い手に託した場合、5年10年先に担い手がなくなって廃止となつては施策自体が問われかねない。社会教育施設は民主的な町づくりをする上では絶対に必要なインフラだと思う。専門性を持った生涯学習財団が行政課題を公民館におろして、住民と共に学ぶ、考えていく場をつくるという事が重要だと思う。

・コミュニティーセンターになるという事は、社会教育法に位置付けられたものではなくなくなってしまふ。それで奈良市は本当にいいのか。市民が親しみやすくするために、愛称を変更することはいいが、行政の施設として公民館はなくてはならないものだと思う。

・公民館の利用率は立地の条件（過疎地や密集地）や日中の人口も踏まえた上でないとハカれない。また、単純に利用者が少ないから無くせばよいというものでもないと思う。

・大津市の例を見たが、コミュニティーセンター化しなくても奈良市は既に子どものための事業を展開し、不登校児の居場所づくり、学校や地域との連携も実現している。それは生涯学習財団という専門の知識を持つ団体が、これまでの経験と知識、ノウハウを使って奈良市と足並みをそろえて社会課題を地域の社会教育に落とし込んできたからだと思っている。

・奈良市の公民館は優良公民館として表彰されている公民館もある。もっと評価されてもいいと思う。次年度の指定管理期間が1年間となったことに関しては、現場からすると不安を覚えるし、家族のために離職を考えるものも出てくるのではないかと懸念している。

・佐賀市では公民館を地域の担い手にゆだねた結果失敗して、市の直営にもどったという事例もある。

・子ども達にとって公民館は敷居が高いように感じることもあったようだが、生涯学習財団が管理運営していることで利用者も心強く安心して利用している。今後も継続して指定管理を行って欲しいという思いはある。

〈事務局〉

今後は先行事例をみながら、検証していき、意見をいただきながら、社会教育委員会議や公民館運営審議会等で議論を重ねて進めていけたらよいと思う。

## 6. 今後の黒髪山キャンプフィールドの運営についての報告【資料6】

〈事務局〉

今後の黒髪山キャンプフィールドの運営について以下のとおり説明【資料4】

・コロナ禍で屋外の活動であるアウトドアやキャンプが脚光をあびている。奈良市の黒髪山キャンプフィールドを有効活用したらどうかというご意見がでてきている。

・現指定管理者も可能な限りの工夫を講じて新しいことに挑戦してくれている。

・今年度は民間のコンサルタントに相談し、黒髪山キャンプフィールドの可能性を模索していた。

・条例で決まっている規制（利用者、料金、開所日）を今後議論していきたい。

〈委員からの質問〉

・施設を予約するのに優先などはあるか。

〈事務局〉

→施設予約は先着順である。

〈委員からの質問〉

・施設は非常に行きにくい場所にあるが、冬場の需要はあるのか。

〈事務局〉

→大人の利用者なら焚火をしたいなどの需要があると思う。

〈委員からの質問〉

・研修棟はあるけれど雨天時に避難する場所は作れないか。

〈事務局〉

→立地が新たに建物を建てるには規制上難しい。また費用面においても難しい。研修棟にエアコン整備をしたので避難は研修棟を利用してもらえたらと思う。

〈委員からの質問〉

- ・ 想定の利用料でどれくらい事業費をまかなえるかの試算をしているのか。

〈事務局〉

→これからの試算となる。

〈委員からの意見〉

- ・ 子ども達のキャンプ場であったので残してもらいたい。
- ・ 利用料をとると抵抗を感じる方がいると思われるので、環境使用料や環境管理料にするとよい。また昆虫採集などできる環境を整えるとよいと思う。
- ・ これまで青少年対象の施設であったため、一般に対象を広げても、青少年を優先して予約できるようにして欲しいと思う。

6. その他

〈委員からの意見〉

社会教育委員の自主学習を次年度は実施したい。

資料

- 【資料1】 令和4年度 近畿地区社会教育研究大会（奈良大会）参加報告書  
令和4年度 第54回奈良県社会教育学校参加報告書
- 【資料2】 令和4年度 全国社会教育全国大会（広島大会）参加報告書
- 【資料3】 奈良市社会教育推進計画に基づく事業の評価・点検に関する活動報告
- 【資料4】 奈良市男女共同参画センターの奈良市生涯学習センターへの移転について
- 【資料5】 公民館をとりまく諸課題と今後の方向性について
- 【資料6】 黒髪山キャンプフィールドについて